



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 能代市立東雲中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和6年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
 オリンピアン自身の様々な経験を通して
 「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
 この価値はオリンピアンだけのものではなく、多くの人々が共有し、
 日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学校2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピアンはJOCが選定
- 期間： 2024年4月～2025年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
 チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
 ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
 オリンピックの価値を生徒に伝え、
 オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：海淵 萌先生（カヌー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2024年9月5日(木)

■ク ラ ス：2年A組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会のカヌー／スラローム競技に出場、種目は女子カヤックシングルだと自己紹介。実際に使用したパドルと着用したレースウェアを披露。その後、オリンピックバリューについて説明。準備運動は、スタートを含め3つのポイントでじゃんけんを行い、勝ったら次に進み、負けたらスタート地点に戻り、最後のポイントに何人が進めるかを競うゲームを実施。制限時間を40秒とし2回実施。

○主運動等



・主運動は、8の字跳びを実施(全3回)。2つの班を合わせ3チーム対抗とし、跳んだ回数を競う。左右から1人ずつ8の字を描くように跳び、引っ掛かった場合は1から数え直す。制限時間は90秒とし、途中作戦タイムを設け、回数を増やすために、回し方や跳ぶ位置を工夫する等、チームで考え、話し合う。3回目は、縄に引っ掛かった時点で終了とするルールに変更して実施。



・運動の時間を振り返り、各チーム共に良い結果を出すためにチームで協力することができた。技術的な工夫も多く見られたが、声を掛け合う場面がとても印象的だった。3回目のルールは、縄に引っ掛かったら終了というプレッシャーの中の挑戦だったが、集中力を発揮して取り組めた。皆の行動は全てオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、運動の時間を振り返り、皆が感じたことがオリンピックバリューにどう結びついているかを一緒に考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：海淵 萌先生（カヌー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2024年9月5日(木)

■ク ラ ス：2年A組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・競技に使用するパドルには2種類あり、左右両方の先端に水掻きが付いているパドルを使用するのはカヤック種目、片方だけ水掻きが付いているパドルを使用するのがカヌー種目、またはカナディアン種目と呼ばれる。映像を見ながら、競技時間は約90秒程、皆が運動の時間に8の字跳びに挑戦した時間と同じだ。オリンピックバリューについて説明し、3つの価値は1つ1つではなく、それぞれが重なり交わることで価値を高めると説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書いてみよう。

発表：エクセレンス：「諦めずに取り組んだ」「全力でやることは楽しい」「大きな声で数えた」「負けた悔しさを次につなげる」等
 フレンドシップ：「声掛け」「チームワークを深めた」「仲間と協力」「励まし合う」「仲間が安心する声掛けを意識した」等
 リスペクト：「ルールを守った」「オリンピックに感謝」「仲間に感謝」「失敗した仲間を責めない」「感謝を伝える」等



・座学の時間を振り返り、グループワークの話し合いで皆が多くのことを感じ、学んでくれたことで、クラスの絆も更に強くなったと思う。運動と座学の時間共に、仲間と協力し全力で取り組んだことを忘れずに、今後の学校生活に活かしてほしい。好きなことや楽しいことをたくさん見つけ、そのことに全力を尽くしてほしい。また様々なことに挑戦し続けることで、貴重な経験ができる。ぜひこれからもオリンピックバリューを意識して生活してほしいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：海淵 萌先生（カヌー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2024年9月5日(木)

■ **ク ラ ス**：2年B組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・カヌー／スラローム競技の女子カヤックシングル種目でロンドン2012大会に出場したと自己紹介。実際に使用したパドルを披露し、カーボン製で軽く左右両方の先端に水掻きがついているのがカヤック種目の特徴だ。レースウェアはカヌーの船内に水が入らないようにカバーの役目もすると説明。オリンピックには、結果だけではなく精神力を高め、お互いを気遣う等のオリンピックバリューがあると説明。準備体操の後、90秒間に3箇所でじゃんけんをして誰が早くゴールできるかを競うゲームを実施。

○主運動等



・主運動は、8の字跳びを実施(全3回)。2つの班を合わせ3チーム対抗とし、跳んだ回数を競う。左右から1人ずつ8の字を描くように跳び、引っ掛かった場合は1から数え直す。制限時間は90秒とし、途中作戦タイムを設け、回数を増やすために、回し方や跳ぶ位置を工夫する等、チームで考え、話し合う。3回目は、縄に引っ掛かった時点で終了とするルールに変更して実施。



・運動の時間を振り返り、8の字跳びの3回目は、プレッシャーが掛かる場面でもお互いに励まし合いながら取り組む様子が見えた。縄に引っ掛かってしまった友達を責めなかったことも素晴らしい。また、決められたルールを守り、仲間と協力し、一生懸命頑張ったこと、他のチームを応援する等、全てオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、皆の言動や行動がオリンピックバリューとどのように結び付くかを一緒に考える時間にしたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：海淵 萌先生（カヌー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2024年9月5日(木)

■ **ク ラ ス**：2年B組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・3歳よりカヌー競技を始め、その後、本格的に競技に取り組むために秋田県の高校に進学した。ゆかりのある秋田県でオリンピック教室ができることを嬉しく思う。ロンドン2012大会を見据えて、練習拠点をイギリスに移した際に出会ったライバル選手
の存在は大きく、お互いに競い合うことでオリンピック出場の夢を叶えることができた。近代オリンピックの創始者であるピ
エール・ド・クーベルタンは、オリンピックを通して、世界が一つになることで世界平和を願ったと説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書いてみよう。

発表：エクセレンス：「最後まで集中できた」「諦めずに最後まで跳び続けた」「失敗しても全力で取り組んだ」等

フレンドシップ：「仲間を信じた」「友達と認め合えた」「話し合いと理解」「声掛け」「次の人が跳びやすいように考えた」等

リスペクト：「結果を受け止める」「ルールを守る」「縄を回す人に感謝」「失敗を責めない」「チーム全員のフェアプレー」等



・座学の時間を振り返り、皆が真剣に考え、意見交換をしてくれたことは素晴らしい。運動の時間に経験したような緊張する場面でも、緊張する自分自身を受け入れることで、ポジティブになれる。自分がカヌーに真剣に取り組んだように、皆も好きなこと
ややりたいこと目標達成に向けて全力で頑張してほしい。何事にも感謝の気持ちを忘れずに、様々なことに挑戦し続けてほしいと話し、授業終了。

■集合写真

・2年A組



・2年B組



■記念品贈呈

・2年A組



・2年B組



■修了証贈呈

